

統計調査ニュース

平成30年（2018）12月

No.385



平成から未来へ ～平成30年の統計行政を振り返り、未来を展望する～

総務省統計局統計調査部長 佐伯 修司

平成30年（2018年）も残すところわずかとなりました。統計調査の実施については、地震、台風、集中豪雨による災害が発生する中、調査員、指導員、都道府県・市区町村の職員を始めとする関係者の皆様の御尽力により、何とか影響を最小限に抑えることができたと考えています。改めて、被災地の皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、関係者の皆様に深く感謝を申し上げたいと思います。

平成30年は、公的統計にとって大きな節目となりました。3月には、EBPM（証拠に基づく政策立案）や統計ニーズへの的確な対応、府省横断的な統計整備の推進、ユーザー視点に立った統計データ等の利活用促進等の具体化を図る「公的統計の整備に関する基本的な計画」が1年前倒しで閣議決定されました。通常国会では、統計委員会、統計センターの

機能の強化などを内容とする「統計法及び独立行政法人統計センター法の一部改正法」が成立し、6月に公布されました。

ここ数年来議論されてきた統計改革が、まさに実行段階に入ったのです。統計局では経済統計の改善を中心に精力的に進めています。具体的には、5年ごとに実施する経済センサス－活動調査の中間年の実態を把握するため、サービス産業動向調査（拡大調査）、経済産業省所管の特定サービス産業実態調査、商業統計調査を統合・再編した「経済構造実態調査」を創設し、来年実施します。また、経済センサス－基礎調査の見直し、プロファイリング活動の開始などにより、統計調査の実施による社会全体の負担をできる限り小さくしつつ、より精度の高い役に立つ統計を作成していきたいと考えています。

統計データ等の利活用推進にとっ

て大きな出来事は、4月に和歌山県内に統計データ利活用センターを開設したことです。統計センターとともに和歌山県、和歌山大学などと連携して、地域の課題解決に役立つデータ利活用の加速化、地域の発展を促すデータサイエンス人材の輩出を進め、和歌山モデルを確立し、地方創生に貢献していきたいと考えています。

「平成」が来年4月で終わり、新しい時代が始まります。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く「Society 5.0」に向けて社会は大きく変わろうとしています。そうした中でも、公的統計の持つ重要性はいささかも揺らぐことはありません。正確で役に立つ公的統計を確実に作成し、適時に分かりやすく便利な形で提供していくため、たゆまず努力してまいります。引き続き、関係者の皆様の御理解とお力添えを心からお願いいたします。

目次

| | |
|---|---|
| 平成から未来へ ～平成30年の統計行政を振り返り、未来を展望する～ | 1 |
| 国連アジア太平洋統計研修所 「持続可能な開発目標(SDGs)のモニタリングのための 公的統計の理論と実務」コースの実地研修について | 2 |

| | |
|---------------------------|---|
| 平成30年度統計データ・グラフフェアの開催について | 3 |
| 第68回全国統計大会を開催しました！ | 4 |
| 新たな「経済センサス－基礎調査」の実施について | 6 |
| 中核市発とうけい通信② | 7 |

国連アジア太平洋統計研修所

「持続可能な開発目標（SDGs）のモニタリングのための 公的統計の理論と実務」コースの現地研修について

国連アジア太平洋統計研修所とは

国連アジア太平洋統計研修所（SIAP）は、開発途上国の政府統計職員を養成することなどを目的とした、国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）の補助機関です。千葉県千葉市にあり、総務省が招請国政府の協力機関となっています。1970年の設立以来、アジア太平洋諸国だけでなく、アフリカや中南米も含めた、世界中の政府統計職員約1万8000人を養成してきました。

「持続可能な開発目標（SDGs）のモニタリングのための 公的統計の理論と実務」コースの現地研修の実施

このコースは、開発途上国における2030アジェンダ及び持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs^(※)）に不可欠な公的統計の整備・充実を図る見地から、アジア太平洋地域等の開発途上国の政府統計職員に対して、統計調査及び指標の設計・解釈・公表における基礎理論と実務及び主要な公的統計の作成・解釈・普及の基準や枠組みについて研修を行い、知識及び公的統計作成能力を向上させることを目的としています。今年度は、カメルーン、エクアドル、エジプト、ガーナ、インドネシア、イラク、カザフスタン、コソボ、キルギス、マラウイ、マレーシア、マーシャル諸島、モーリシャス、モンゴル、ミャンマー、パプアニューギニア、韓国、ルワンダ、サモア、ソロモン諸島、スーダン、タジキスタン、タイの23か国から23名の研修員が参加しています。

本研修コースの一環として、岐阜県及び岡山県の2班に分かれ、県の協力を得て、平成30年10月24日（水）～26日（金）の3日間にわたり、地方公共団体における統計業務や家計調査業務についての研修、家計調査世帯への訪問などを行いました。

(※) 2015年9月に国連で採択された、2016年から2030年までの国際的な開発目標で、17のゴール・169のターゲットから構成される。

◆ 岐阜県 現地研修日程 ◆

10月24日（水）

環境生活部長表敬訪問、県勢概要・業務概要・家計調査の概要説明、統計課執務室視察



環境生活部長表敬訪問

10月25日（木）

調査区視察、施設見学、質疑応答、意見交換会



調査区視察

10月26日（金）

事業所・施設見学



施設見学

◆ 岡山県 現地研修日程 ◆

10月24日（水）

総合政策局長表敬訪問、県勢概要・業務概要・家計調査の概要説明、統計分析課執務室視察



統計分析課執務室視察

10月25日（木）

調査区視察、家計調査世帯訪問、施設見学、質疑応答、意見交換会



家計調査世帯訪問

10月26日（金）

事業所・施設見学



事業所見学

平成30年度 統計データ・グラフフェアの開催について

総務省政策統括官(統計基準担当)室では、「統計の日」(10月18日)の関連行事の一つとして、10月20日(土)・21日(日)の2日間、新宿駅西口広場イベントコーナー(東京都新宿区)において、総務省、東京都及び公益財団法人統計情報研究開発センターの共催により、「統計データ・グラフフェア」を開催いたしました。

会場では、統計グラフ全国コンクールの入選作品等の展示のほか、各都道府県の魅力が分かる企画展示、各省の統計調査の紹介に加え、本年は、明治150年を記念して日本の統計の歴史が分かる資料の展示等、統計の大切さ、面白さを感じていただける展示を目指し、開催いたしました。

開催においては、関係省庁及び地方公共団体、日本銀行等から、展示物及び各種統計資料について御提供をいただき等、多くの皆様の御協力を得て実施しました。当日は、大変な御盛況をいただき、本年は、開催2日間で約3,500人もの大変多くの方にご来場いただきました。御協力賜りました皆様に心より感謝申し上げます。以下、当フェアの様子について、紹介いたします。

統計グラフコンクール入選作品展示コーナー

統計グラフ全国コンクールの入選作品及び東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県内の統計グラフコンクールにおける入選作品を合わせて約200作品展示いたしました。

全国の小学生、中学生、高等学校・一般等、各部門ごとに、世界規模の大きなテーマから身近なものを観察したテーマまで、統計グラフを用いて作成された、様々な視点に



(統計グラフコンクール入選作品展示コーナーの様子)



(三宅政策統括官から入選者への記念品贈呈の様子)

よる工夫の凝らされた作品を展示いたしました。多くの方が来場され、熱心に御覧になっていました。御来場いただいた入選者や御家族には、記念品の贈呈や、国勢調査イメージキャラクターのセンサスくんのみらいちゃんとの記念撮影を行いました。また、21日(日)午後会場を訪れた入選者へは、三宅 俊光政策統括官から記念品の贈呈や記念撮影を行いました。

都道府県の企画展示コーナー

各都道府県に御協力いただき、統計データを用いた都道府県の魅力が分かる企画展示(パネル展示)や、地域の特色や観光等の様々な資料・パンフレットの配布などの広報展示を行いました。大変多くの方に御覧いただき、パネルの写真撮影や興味を持って資料やパンフレットを持ち帰られる方が多く見られました。



(都道府県の企画展示コーナーの様子)

各府省の統計調査紹介コーナー

各府省の統計調査を紹介するコーナーでは、来場者の方々に国が実施する統計調査への関心と理解を深めていただくため、様々な統計調査について、調査の概要、統計調査結果、活用事例等について紹介いたしました。

明治150年記念展示コーナー

日本の最古の戸籍表である「日本全国戸籍表」や、日本最初の生産統計である「二府五十四縣物産」、明治期の統計集計機械「川口式電気集計機」等のパネル展示や、最古の総合統計書である「辛未政表」等の複製等の手に触れられる展示、また、明治150年を記念して総務省で作成した統計の歴史や意義を分かりやすく説明した動画コンテンツや統計サイトの展示を行いました。

前記のほか、今年度の「統計の日」標語の入選作品の紹介等の「統計の日」関連コーナーや、子供から大人まで統計を気軽に学べる「統計教育紹介コーナー」を設けました。

総務省政策統括官(統計基準担当)室では、これからも、国民の皆様が統計の重要性に対する関心と理解を深め、統計調査に対するより一層の御協力を頂けるよう、引き続き、統計の普及・啓発活動に取り組んでまいります。

第68回全国統計大会を開催しました！

全国統計大会は、10月18日「統計の日」の行事の一つとして、国、地方公共団体、関係団体等の統計関係者が一堂に会し、我が国の統計の進歩・発展のみならず、統計の普及や活用に資することを目的に開催しています。

68回目を迎える今大会は、総務省及び公益財団法人統計情報研究開発センターの主催により、平成30年11月19日（月）、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、鈴木淳司総務副大臣、大西総務大臣政務官も出席し、全国から600名を超える統計関係者の参加の下、開催しました。

開会

開会に当たって、まず、主催者として、鈴木総務副大臣から挨拶がありました。次に、公益財団法人統計情報研究開発センターの杉浦正健会長から挨拶があり、来賓として都道府県統計連絡協議会会長の熊谷克三東京都統計部長から祝辞を頂きました。



主催者挨拶をする鈴木総務副大臣

各種表彰

平成30年度に統計調査の実施、統計の普及等に功績のあった方々や団体に対し、「統計調査功績者」各省大臣表彰、地方公共団体における統計利活用表彰、統計データ分析コンペティション入賞者表彰、第66回統計グラフ全国コンクール入賞者表彰、「統計の日」標語入選者表彰、大内賞受賞者表彰が行われました。

受賞団体・受賞者（敬称略）

《「統計調査功績者」各省大臣表彰》

総務大臣表彰 野村 清美（石川県）
 辻 輝茂（大阪府）
 厚生労働大臣表彰 梶田 孝子（山口県）
 農林水産大臣表彰 平木 隆（鹿児島県）
 経済産業大臣表彰 石山 雅子（青森県）
 国土交通大臣表彰 株式会社吉田組（群馬県）



鈴木総務副大臣による表彰状の授与

《第3回地方公共団体における統計利活用表彰》

総務大臣賞 神奈川県横須賀市
 統計局長賞 福岡県福岡市
 特別賞 新潟県新潟市、岐阜県、宮崎県
 奨励賞 兵庫県加古川市

《統計データ分析コンペティション》

総務大臣賞 大段利々子（高校生）
 平原 幸輝（大学生・一般）
 優秀賞 宮本 雨月、金山 瑠依、
 門脇 俊樹（高校生）
 小野島昂洋（大学生・一般）
 日本統計協会賞 白石 大悟、高田 蒼大、
 武田 裕喜（高校生）
 池田 泰成、柴辻 優樹、
 鶏内 朋也、石川 貴啓、
 佐野 岳史（大学生・一般）



大西総務大臣政務官による表彰状の授与

《第66回統計グラフ全国コンクール》

総務大臣賞
 畠 朋香（愛知県立豊野高等学校3年生）
 文部科学大臣賞
 江見 一夏（福岡県福岡市立愛宕小学校2年生）
 日本統計学会会長賞
 竹内 花奈（埼玉大学教育学部附属中学校3年生）
 日本品質管理学会賞
 高橋 慧（埼玉県川越市立霞ヶ関小学校6年生）

金丸三郎賞

秋山 詞美 (東京都聖ドミニコ学園小学校4年生)

石橋信夫賞

中西 美来 (岐阜県大垣市立西中学校2年生)

《平成30年度「統計の日」標語》

特選

鹿沼十三二 (群馬県藤岡市統計調査員)

《大内賞》

赤澤ヨシ子 (福島県 統計調査員)

今井 洋夫 (埼玉県 元経済産業省職員)

高橋 智 (新潟県 統計調査員)

宮本 昭子 (熊本県 統計調査員)

受賞者謝辞

各種表彰の後、受賞者代表として、「大内賞」を受賞した埼玉県の今井洋夫氏から謝辞が述べられ、授与者、主催者を代表して鈴木総務副大臣が拝受しました。

統計・データサイエンス活用セミナー

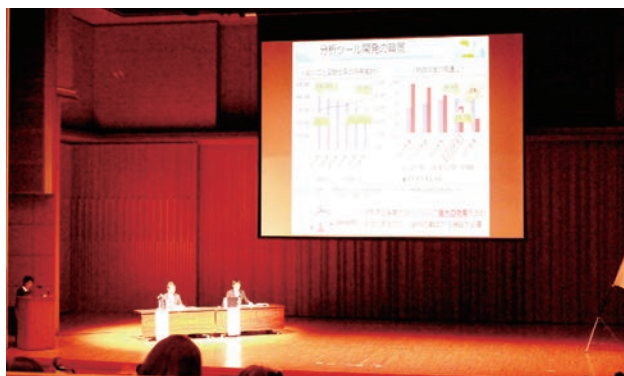
表彰式終了後、「統計・データサイエンス活用セミナー」を開催しました。

このセミナーは、受賞者による実績・作品を広く紹介することにより、統計の進歩・発展と普及啓発に資することを目的とし、慶應義塾大学大学院教授の渡辺美智子氏の司会により、地方公共団体における統計利活用表彰受賞2団体及び第66回統計グラフ全国コンクール大臣賞受賞者によるプレゼンテーションが行われました。

《地方公共団体における統計利活用表彰》

総務大臣賞を受賞した神奈川県横須賀市の「横須賀市のEBPM推進に寄与する経済波及効果分析ツールの開発と全庁的活用」について、横須賀市政策推進部都市政策研究所研究員の鈴木栄之心氏から発表がありました。

続いて、統計局長賞を受賞した福岡県福岡市の「福岡市地域包括ケア情報プラットフォーム」について、福岡市保健福祉局政策推進部政策推進課 ICT活用推進係長の中田和弘氏から発表がありました。



統計利活用受賞団体の発表の様子

《第66回統計グラフ全国コンクール》

総務大臣賞を受賞した畠 朋香さんから、受賞作品「18歳の私達が拓く未来！選挙に行こう」についての発表がありました。

畠さんは小学校2年生の時から、統計グラフ全国コンクールに応募を続けられており、この度その努力が総務大臣賞という形に結実しました。畠さんは、「18歳の選挙権」はグローバルでは当たり前のことであることを示し、日本における投票率、特に若い人の投票率の低さを課題と捉えました。

同級生への意識調査を行い、政治に何が求められているのか、18歳の気持ちを力強く代弁しています。総務大臣賞にふさわしい、優れた作品です。

続いて、文部科学大臣賞を受賞した江見 一夏さんが、受賞作品「小学生のにもつのおもさ」について発表しました。

小学生が毎日背負う「ランドセルの重さ」については、今、社会的な問題にもなっており、とてもタイムリーなテーマです。江見さんは、その実態をきちんと計測し、全体の重さ、中身、曜日の効果を、とても工夫されたグラフで分かりやすくまとめました。

ランドセルの重さを具体的に伝えるために、1日で「スイカ1個」、1週間では「皇帝ペンギン1羽分」、1か月では「ツキノワグマの雌1頭分」と、かわいいイラストで表現しており、数字を伝える力も見事でした！

両作品とも、作品を作るきっかけとなった動機や作成過程において苦労した点など、受賞者の作品に対する熱い気持ちが伝わる発表となり、司会者や指導に当たった先生やお父様のコメントも交えて会場は非常に盛り上がり、盛大な拍手が送られました。



統計グラフ全国コンクール受賞作品の発表の様子

統計グラフ全国コンクール入選作品の展示

会場入口には、第66回統計グラフ全国コンクール入選作品を展示しました。御来場になられた方々が熱心に御覧になられるとともに、多くの受賞者が御自身の作品の前で記念撮影をされていました。

新たな「経済センサス-基礎調査」の実施について

次回の経済センサス - 基礎調査は調査方法を大きく見直した上で、2019年6月から2020年3月までの期間に実施することとしています。本号ではその見直しの背景と新たな調査のポイントを紹介します。

1 見直しの背景

「公的統計の整備に関する基本的な計画」(2018年3月閣議決定)において、事業所母集団データベース(※)の更なる整備・利活用の促進が掲げられ、その基盤情報を提供する経済センサス - 基礎調査については、事業所・企業の母集団情報の更なる整備促進を図ること、次回の経済センサス - 活動調査の円滑・効率的な実施に向け、行政記録情報等により新たに捕捉した事業所の確認作業を早期に完了することなどが掲げられました。

※(参考) 事業所母集団データベースの概要(総務省統計局ウェブサイト): <https://www.stat.go.jp/data/jsdb/gaiyou.html>

2 調査のポイント

(1) 法人番号の活用

法人番号は2013年に成立した法律に基づき、国税庁が法人に法人番号を指定し、指定を受けた団体の①名称、②所在地及び③法人番号の3項目を公表しているものです。次回の調査では新たな行政記録情報として「法人番号」を活用し、事業所・企業の母集団情報の更なる整備促進を図る予定です。

(2) 新たな調査方法の導入

事業所・企業の母集団情報の更なる整備促進、次回の経済センサス - 活動調査(2021年)に向けた精緻な名簿情報の作成という重要な目的と、調査対象事業所、地方公共団体、調査員の皆様の負担軽減を両立できる調査方法として、次回の調査では①外観等による調査、②調査期間の平準化、③ICTの活用・調査事務の効率化の3点を導入することにしました。

①外観等による調査

次回の調査では全ての事業所の名称、所在地及び活動状態を調査員が原則として外観から調査した上で、新設の事業所にのみ調査票を配布(原則ポスティング)する方法を導入します。



②調査期間の平準化

従前は7月1日現在における全国一斉の調査を実施してきましたが、次回の調査では2019年6月から2020年3月までの10か月間を調査期間とし、その間に全国全ての事業所を順次調査する方法を導入します。

③ICTの活用・調査事務の効率化

従前、調査員は紙の地図と名簿を持って、実地に調査をしていましたが、次回の調査では調査員全員に1台ずつの調査員用端末(タブレット端末)を貸与し、調査員は実地に調査した結果を端末に入力することで調査を実施します。また、国・都道府県・市町村間でタイムリーに調査状況をシェアできるシステムを整備し、調査事務の進捗状況を随時、システム上で確認しながら効率的に調査事務を実施できます。

○新たな経済センサス - 基礎調査の実施について、皆様方の御理解と御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

中核市発とうけい通信⑤2

「住みやすさ日本一」を目指すまち“久留米”^{くるめ}

久留米市総務部総務課

【久留米市の概要】

H30.11.1現在

人口 306,117人

世帯数 134,762世帯

面積 229.96km²

【沿革】

明治22年 市制施行

平成元年 市制100周年

平成17年 広域合併(人口30万人)

平成20年 中核市に移行

久留米市
イメージキャラクター
くるっば

【久留米市の紹介】

久留米市は、福岡県の南西部に位置し、九州一の大河筑後川と東西に連なる耳納連山に生まれ、豊かな自然、高度な医療や文化芸術など優れた資源があり、県内第3の都市として発展を遂げてきました。農業、環境、観光などの成長分野において高いポテンシャルを有していることから、大手シンクタンクの調査では、潜在力のあるまちとして高く評価されています。市民意識調査でも「住みやすい」と回答した人が5年連続で8割を超えています。

そのような中、特に文化芸術面では平成28年4月に優れた音響や舞台装置を備えた「久留米シティプラザ」がオープンしました。海外オーケストラや人気ミュージカルなど質の高い芸術に触れる場であるとともに、市民の文化芸術振興や交流の場になっています。



久留米シティプラザ

また、平成28年11月には世界的タイヤメーカー株式会社ブリヂストンの創業者である石橋正二郎氏が社会福祉及び文化の向上のため、郷土久留米市に開館した石橋美術館を市が引き継ぎ、「久留米市美術館」としてリニューアルオープンしました。開館以来「九州洋画」、「吉田博展」など話題の特別展を開催し、多くの人が訪れています。



久留米市美術館

平成30年6月には福岡県と共同で、県南地域の新たなスポーツ振興の拠点となる「久留米アリーナ」を建設しました。

「久留米アリーナ」は3000席の固定観覧席を有するバスケットコート3面分のメインアリーナと1面分のサブアリーナ、柔道4面分の武道場、剣道4面分の武道場などを配置し、大規模な大会から日常的な利用まで、多くの人々がスポーツを楽しむことができる施設です。また、ハイレベルなプレー観戦から練習試合の応援まで、臨場感のある空間で、競技者だけでなく、観戦者もスポーツに親しむことができます。オープニングイベントでは、久留米市出身のオリンピックメダリスト、地元福岡のプロバスケットチームなど多種多様な選手をお迎えし大盛況となりました。



久留米アリーナ

これらの施設のほか、豊かな自然や食文化、医療環境の充実などをPRした結果、陸上競技の強豪・ケニア共和国のみならず、カザフスタン共和国とも2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地として合意しました。

【調査員確保対策】

近年、調査員の確保対策は全国的に喫緊の課題であり、久留米市としても例外ではありません。現在、約240名の調査員が登録されていますが、約8割が65歳以上の高齢です。ライフスタイルの多様化、共働き世帯の増加などの社会的背景の変化により、登録調査員の大幅な増加は見込めないことから、高齢の登録調査員を継続して確保しつつ、若手の登録調査員(40～50歳代)を育成・支援するなど、いかに世代交代の準備を進めていくかが重要であると認識しています。特に今後は若手登録者の任用を増やし、より経験を積むことで、調査に関する知識及び客体対応力の向上を図るとともに、新規登録者の確保にも鋭意努める必要があると考えています。

【終わりに】

久留米市は「とんこつラーメン」発祥の地です。昨年は誕生から80年を記念し誕生祭が開催され多くの方で賑わいました。

市内には、おいしいラーメン店の他、趣向を凝らした焼き鳥店も多く、グルメ(久留米)のまちとしても好評です。是非お越しください。

最近の数字

| | | 人口 | | 労働・賃金 | | | 産業 | | | 家計(二人以上の世帯) | | 物価 | |
|-------|--------|------------------|------|--------|------------------|--------------------|------------------------|------------------|----------------|------------------------------|---------|--------|---|
| | | 総人口 (推計による人口) | | 就業者数 | 完全失業率 (季節調整値) | 現金給与総額 (規模5人以上) | 鉱工業 生産指数 (季節調整値) | サービス産業 の月間売上高 | 1世帯当たり 消費支出 | 1世帯当たり 可処分所得 (うち勤労者世帯) | 消費者物価指数 | | |
| | | 千人(Pは万人) | | | | | | | | | 万人 | % | 円 |
| 実数 | H30. 6 | 126,509 | 6687 | 2.4 | 447,206 | 103.4 | 31.8 | 267,641 | 654,961 | 100.9 | 100.5 | | |
| | 7 | P12659 | 6660 | 2.5 | 376,619 | 103.0 | P31.5 | 283,387 | 485,326 | 101.0 | 100.6 | | |
| | 8 | P12649 | 6682 | 2.4 | 276,123 | 103.3 | P31.4 | 292,481 | 422,636 | 101.6 | 101.3 | | |
| | 9 | P12642 | 6715 | 2.3 | 269,656 | 102.9 | P32.4 | 271,273 | 365,446 | 101.7 | 101.4 | | |
| | 10 | P12644 | 6725 | 2.4 | P271,333 | P105.9 | ... | 290,396 | 428,519 | 102.0 | 101.7 | | |
| | 11 | P12645 | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | P101.4 | |
| 前年同月比 | H30. 6 | - | 1.6 | * 0.2 | 3.3 | * -1.3 | 1.3 | -1.2 | 4.8 | 0.7 | 0.6 | | |
| | 7 | - | 1.5 | * 0.1 | 1.6 | * -0.4 | P1.7 | 0.1 | -2.0 | 0.9 | 0.9 | | |
| | 8 | - | 1.7 | * -0.1 | 0.8 | * 0.3 | P1.1 | 2.8 | -0.9 | 1.3 | 1.2 | | |
| | 9 | - | 1.8 | * -0.1 | 0.8 | * -0.4 | P0.6 | -1.6 | -1.8 | 1.2 | 1.2 | | |
| | 10 | - | 2.2 | * 0.1 | P1.5 | * P2.9 | - | -0.3 | -2.4 | 1.4 | 1.5 | | |
| | 11 | - | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | |

(注) P：速報値 *：対前月
 家計(二人以上の世帯)の前年同月比は実質値。平成30年1月以降の各月の前年同月比は、平成30年1月に行った調査で使用する家計簿の改正の影響による変動を調整した変動調整値
 鉱工業生産指数は平成27年基準に切り替えた値

掲示板 統計関係の主要日程 (2018年12月～2019年1月)

《会議及び研修関係等》

| 時期 | 概要 | 時期 | 概要 |
|-------|------------------------------------|------|---|
| 12月5日 | 統計研修 統計入門課程「統計利用者向け入門(12月)」開講(～7日) | 1月1日 | オンライン講座 「初めて学ぶ統計－公務員のためのオンライン講座－」開講(～2月28日) |
| 17日 | 第129回統計委員会 | 〃 | オンライン講座 「統計データのできるまで－統計的推測の基礎－」開講(～2月28日) |
| 〃 | 統計研修 統計専門課程「政策立案と統計」開講(～19日) | 17日 | 統計研修 統計入門課程「統計実務者向け入門(1月)」開講(～18日) |
| 19日 | 統計研修 統計専門課程「政策評価と統計」開講(～21日) | 21日 | 統計研修 統計専門課程「産業連関表の作成・分析」開講(～25日) |
| | | 30日 | 第130回統計委員会 |
| | | 〃 | 統計研修 特別コース「ビッグデータ入門」開講 |
| | | 31日 | 統計研修 特別コース「ビッグデータ活用」開講 |

《調査結果の公表関係》

| 時期 | 概要 | 時期 | 概要 |
|-------|---|-------|--|
| 12月7日 | 家計調査(家計収支編：平成30年(2018年)10月分)公表 | 1月18日 | 消費者物価指数(全国：平成30年(2018年)12月分及び平成30年(2018年))平均公表 |
| 〃 | 家計消費状況調査(支出関連項目：平成30年10月分)公表 | 〃 | 小売物価統計調査(全国：平成30年(2018年)12月分)公表 |
| 〃 | 消費動向指数(CTI)平成30年10月分公表 | 21日 | 人口推計(平成30年8月1日現在確定値及び平成31年1月1日現在概算値)公表 |
| 〃 | 小売物価統計調査(ガソリン)平成30年11月分公表 | 25日 | 消費者物価指数(東京都区部：平成31年(2019年)1月分(中旬速報値))公表 |
| 14日 | 平成30年科学技術研究調査結果公表 | 〃 | 小売物価統計調査(東京都区部：平成31年(2019年)1月分)公表 |
| 20日 | 人口推計(平成30年7月1日現在確定値及び平成30年12月1日現在概算値)公表 | 31日 | サービス産業動向調査(平成30年11月分速報及び平成30年8月分確報)公表 |
| 21日 | 消費者物価指数(全国：平成30年(2018年)11月分)公表 | 下旬 | 住民基本台帳人口移動報告(平成30年(2018年)12月分)公表 |
| 〃 | 小売物価統計調査(全国：平成30年(2018年)11月分)公表 | | |
| 27日 | 住民基本台帳人口移動報告(平成30年(2018年)11月分)公表 | | |
| 28日 | 労働力調査(基本集計)平成30年(2018年)11月分(速報)公表 | | |
| 〃 | 消費者物価指数(東京都区部：平成30年(2018年)12月分(中旬速報値)及び平成30年(2018年)平均(速報値))公表 | | |
| 〃 | 小売物価統計調査(東京都区部：平成30年(2018年)12月分)公表 | | |
| 〃 | サービス産業動向調査(平成30年10月分速報及び平成30年7月分確報)公表 | | |
| 31日 | 統計トピックス 「『若年生まれ』と『新成人』の人口－平成31年新年にちなんで－公表 | | |
| 1月11日 | 家計調査(家計収支編：平成30年(2018年)11月分)公表 | | |
| 〃 | 家計消費状況調査(支出関連項目：平成30年11月分)公表 | | |
| 〃 | 消費動向指数(CTI)平成30年11月分公表 | | |
| 〃 | 小売物価統計調査(ガソリン)平成30年12月分公表 | | |

編集発行 **総務省統計局**
 〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1
 総務省統計局 統計利用推進課 情報提供第一係
 TEL 03-5273-1160 FAX 03-3204-9361
 E-mail y-teikyoul@soumu.go.jp
 ホームページ <https://www.stat.go.jp/>
 御意見・御感想をお待ちしております。